

京都大學文學部哲學科卒業

論文題目 — 昭和二十四年九月—

哲學專攻

小林 幹夫 無限把握の課題とカントの様相に就いて

出口 穰 カントに於ける自由の問題

西洋哲學史專攻

田中 吉信 聖アウグスティヌスに於ける恩寵と自由に就いて

當津 武彦 アリストテレスの構想論

支那哲學史專攻

十合 章二 莊子の思想

宗教學專攻

村田 義人 ヘーゲルにおける神について

柳沼 重剛 デルボイ

—デルボイに於けるアポロンの神托をめぐつて—

社會學專攻

大野 勝弘 山村(大砂子部落)の社會學的考察

佛教學專攻

池山一切圓 天臺に於ける相對と絶對

本庄 良弘 攝大乘論を中心とする三性説の研究

京都大學文學部哲學科卒業

論文題目 — 昭和二十五年三月—

哲學專攻

上田 春雄 神について

佐々木現順 Antinomie に就て

—カントの Dialektik を中心として—

淺井彌太郎 マックス・ウェーバーの社會學

岩坪 紹夫 先驗的現象學に於ける志向的統一の一樣相

岩見 至 習慣論

—フランスに於ける習慣の形而上學を中心として—

越智 昇 ソクラテスに於ける「よく生きること」に就て

大塚 恵一 カントの物自體論

桑本 彰俊 プラトンの所謂「イデア説」について

小島 芳子 デカルトの情念論

郷司 泰造 Essai über Pascal's Gedanken

酒井 修 精神現象論に於ける悟性的意識の教化に就

57

清水 徹 絶望と可能性

—キェルケゴールを中心として—

新月 通正 デカルトの方法

高草 濬路 カントに於ける自由

谷口 香純 先験的原則に於ける綜合

戸塚 七郎 プラトン初期對話篇に於ける中間者に就て

富川 滋 方法について

中平 郁子 リルケについて

野崎 學 キリスト教のギリシヤ的展開

—アレクサンドリヤ學派を中心とする—

延田 政次 死の實存的考察

野口友三郎 Leibniz の個體に於ける調和性の問題

日垣 秀雄 無限と連續の問題

細川 董 新らしき哲學のために

松本 晉 カントの反省判斷力

松本 孝光 デイルタイの哲學の立場における文學の

意義

松井 清武 R. Russell の哲學について

—無限論を中心として—

元重 修一 「ニイチエ」の問題

森田 良紀 ヘーゲル辯證法に於ける「根據」の問題

西洋哲學史專攻

金 琪中 D'holbach の「自然の體系」について

松尾 元和 實存と自由

—ハイデッガーについての一試論—

桑原 昌治 「或る觀靈者の夢」について

薄井 才次 Spinoza の認識論に於ける Imaginatio に

就いて

印度哲學史專攻

足立 修 數論頌に於ける自性について

平田 高士 二十五諦と區別知

佐藤 久夫 法稱の論理思想に關する一考察

支那哲學史專攻

大西 晴隆 王學の史的意義

稻毛 信夫 孫文に於ける民族に就て

心理學專攻

高橋 雅春 精神分析學序論

生澤 雅夫 Frohlich 現象に關する一考察

辻岡 美延 智能検査に對する因子分析法の適用につ

て

村尾 能成 知的機能に及ぼす光の影響について

小林 哲朗 猫の視覚辨別學習について

後藤 貞夫 心理學に於ける場の理論

遠藤 忠彦 視的速度に關する實驗的研究

倫理學專攻

芝 烝 ヘーゲルの市民社會について

—經濟と倫理—

手島 司 實踐的世界に就て

—カント第二批判の研究—

橋本 健男 S. Freud の精神分析學に就て

笠 達也 Henri Bergson に於ける「自己」の二元的

構造と道德の問題

教育學教授法專攻

横田 三郎 アメリカ教育史を中心としたる教師の自由

に就いて

竹内 義彰 綜合技術ゴブテックの教育思想に就いて

西 滋勝 教育哲學への一據點

—カントに於ける經驗概念と自我概念を

めぐつて—

守野 登 教育愛

森田 昌樹 人間形成に於ける時間と自由

美學美術史專攻

出崎 義一 ショパン論

淺野 隆資 美的判斷力批判の一考察

木川 美子 美しき魂

山口 牧生 美の身體性

山田 幸平 藝術批評に於ける自我の問題

鍵和田 務 カント美學に對する一考察

宗教學專攻

阿川 照行 宗教的生についで

吉村 一夫 W. James: 'The Varieties of Religious

Experience.

今西 誠也 神の愛と人の愛

—キリスト教的救濟論について—

上原 豊明 天理教に關する研究

—特に神及び人間の問題をめぐりて—

田中 英三 純粹理性宗教の成立

社會學專攻

浦川 弘 人口問題

遠藤 力雄 言語から見た未開社會の封鎖性に就いて

河相誠一郎 海村生活の實態

—廣島縣沼隈郡走島の場合—

木村 明生 近代ロシヤ社會層の研究

玄 文叔 現代社會階級の研究

四方 壽雄 國家論

小松 三郎 米國農村兒童の社會における位置

恒藤 武 コミュニケーションに就いて

土田 英雄 社會統制論

藤田 正雄 現代日本農村社會の構造

北折 昭一 世論の研究

津布良幹夫 元祿時代に於ける上方町人の研究

野口 哲人 *Social Disorganization.*

野崎 治男 現實科學の論理

長谷川昭彦 近代社會における合理主義

藤田 謙光 社會の戰爭との關連について

南 傳太郎 父家長制大家族の成立

矢口 仁也 一農村の構造に就いて

—長野縣北安雲郡北小谷村大綱—

安井 滋 社會科學の方法に關する一試論

光川 晴之 近代に於ける家族

益田 庄三 村落の社會學的實證研究

—島根縣都野津を中心にして—

山邊 光郷 社會統制の一現象としての新聞統制

吉井藤重郎 支那都市の研究

佛教學專攻

提山 西堂 逆縁の悲

竹貫 純一 死

野々口 清 臨濟研究

夢 慧 親鸞教的時間意識

澤口 昭津 無の學的認識について

キリスト教學專攻

田中幸次郎 *カール・バルトの豫定說に就て*

彙報

印度・佛教學會例會

六月三日(土) 午後三時 於文學部第五演習室

「陀羅毘陀咒に就いて」 中島 聞 隆

京大佛教學研究會

五月二十七日 午後一時 於人文科學研究所會議室

「中觀哲學の論理」 梶山 雄 一

六月十七日 午後一時 於人文科學研究所會議室

「唯識に於ける根據 (Ground) の問題」

服部 正 明

前 號 目 次

中江藤樹の教學……………文學博士 下程 勇吉	アリストテレスに於ける知性の構造(系前)	多值論理學……………文學士 杉原 丈夫
------------------------	----------------------	---------------------